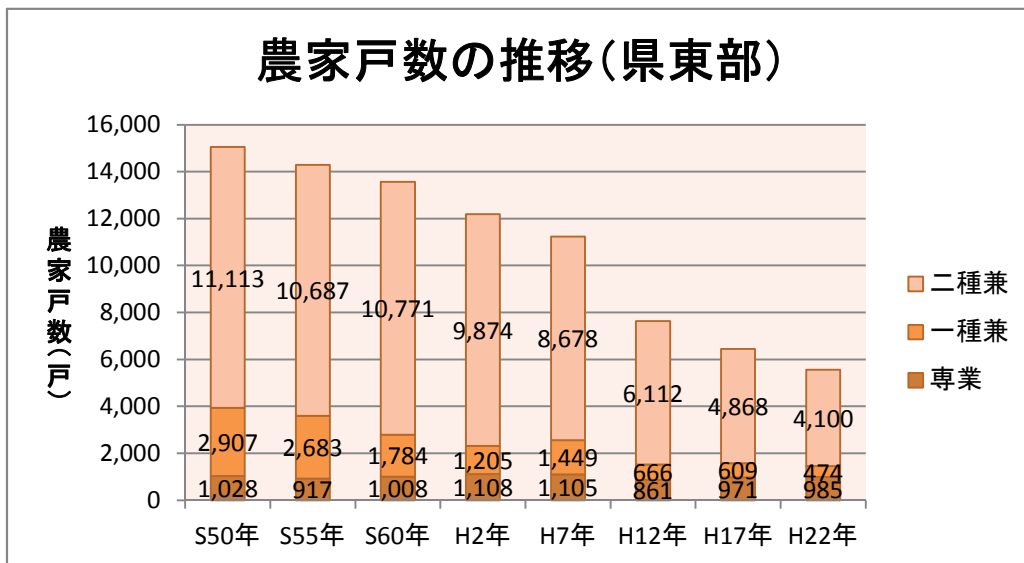


Ⅲ 農家・農業者の状況

1 農家戸数

県東部の農家戸数は年々減少しているが、専業農家戸数は近年回復傾向にある。



世界農林業センサス(農業センサス)、鳥取農林水産統計年報

注1) 専業農家: 世帯員のうちに、自営農業以外の兼業従事者が一人もいない農家をいう。

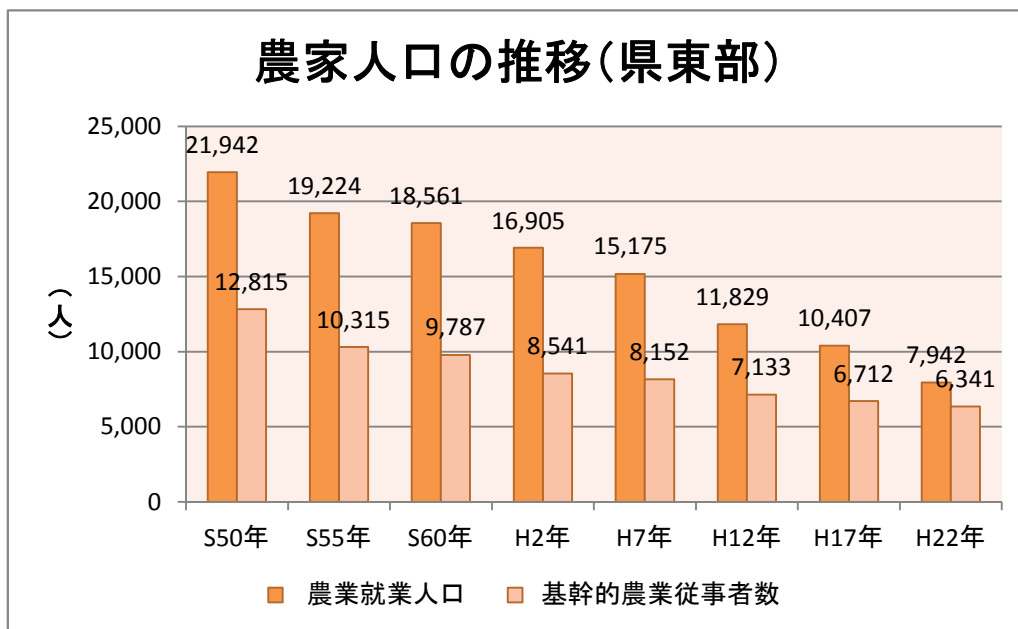
第1種兼業農家: 農業と兼業とを比べて、農業所得を主としている兼業農家をいう。

第2種兼業農家: 農業と兼業とを比べて、農業所得を従としている兼業農家をいう。

2 農業者数

農業就業人口は減少を続けており、平成22年は平成17年と比較して24%減少している。

農業就業人口のうち、基幹的農業従事者数は減少率が比較的ゆるやかであり、平成22年は平成17年と比較して5.5%の減少にとどまっている。



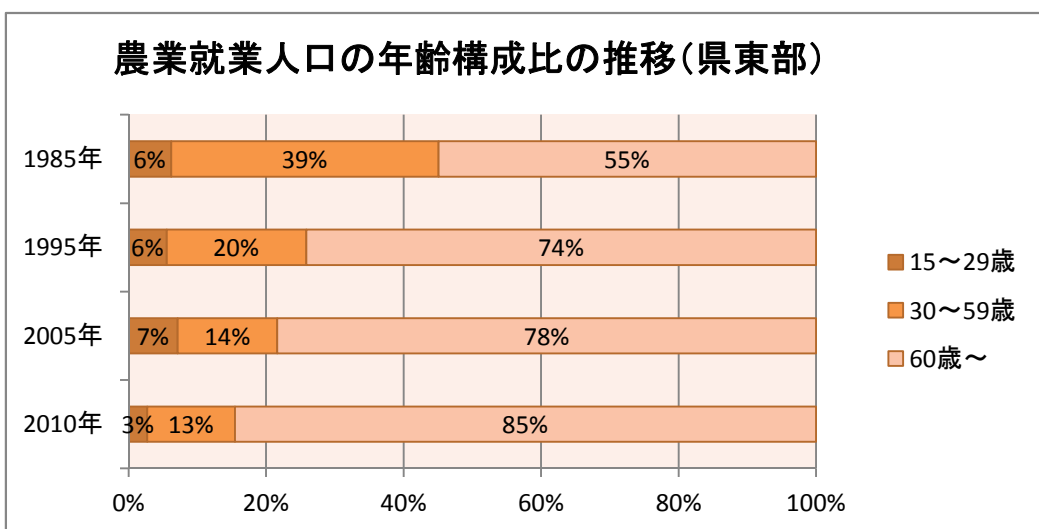
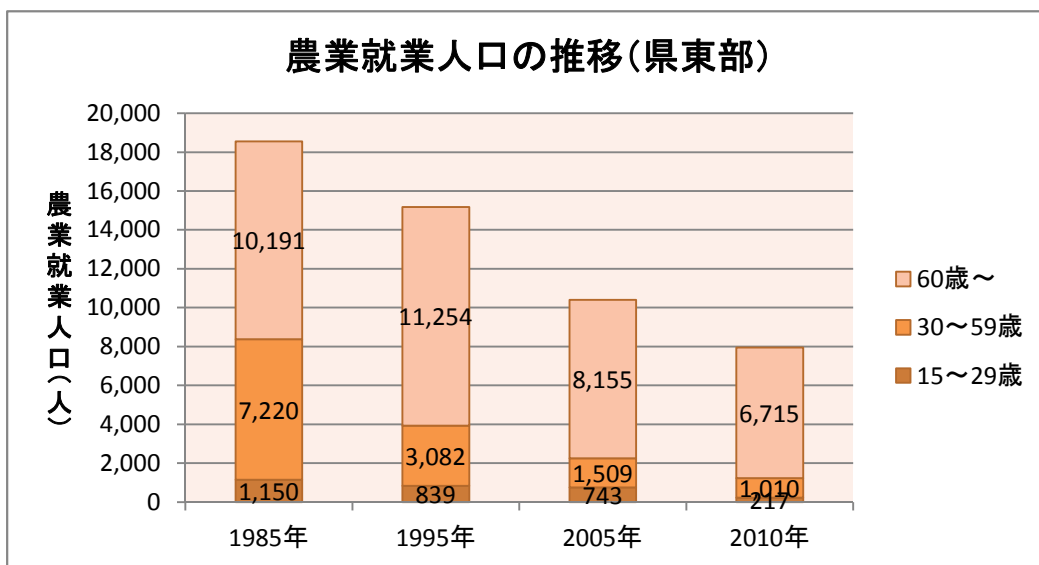
世界農林業センサス(農業センサス)、鳥取農林水産統計年報

注1) 農業就業人口: 「農業のみに従事した世帯員」及び「農業と兼業の双方に従事したが、農業の従事日数の方が多い世帯員」のことをいう(15才以上)。

注2) 農業就業人口のうち、普段の主な状態が「仕事に従事していた者」のことをいう。

3 農業者年齢

農業就業人口の年齢構成は、1985(昭和60)年では、15～59歳が45%を占めていたが、2010(平成22)年では、15～59歳が16%、60歳以上が84%を占めている。

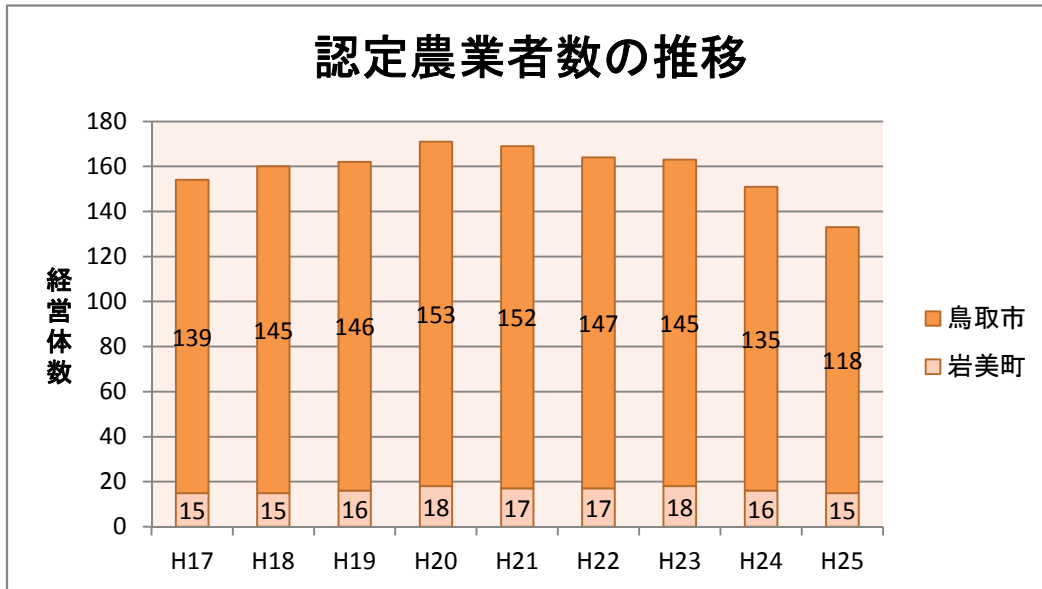


4 認定農業者数

県東部の認定農業者数は平成20年度の171経営体をピークに平成25年度は133件へ減少した。

認定農業者減少の主な要因は、新規認定農業者数を、計画を更新しなかった農業者数が上回るためである。

法人の認定農業者数は増加傾向が続いており、平成17年度の18経営体から平成25年度の40経営体へと22経営体増加した。

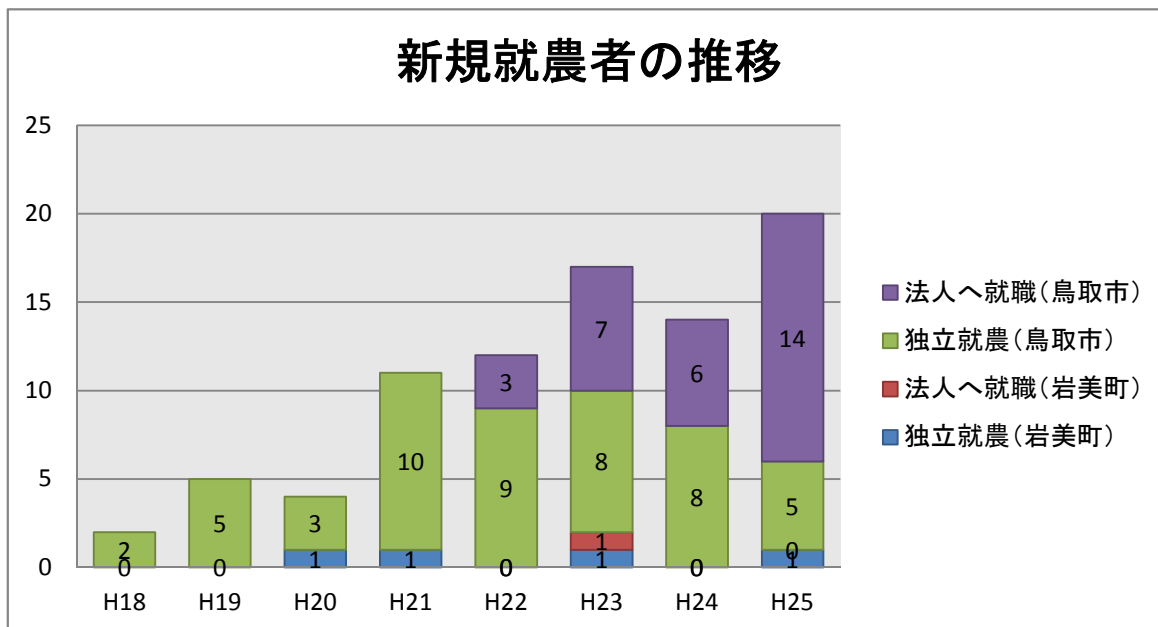


* 鳥取市、岩美町調べ

5 新規就農者数

平成21年度以降、全県的に農の雇用事業の活用等により、新規就農者が増加している。

平成25年度の新規就農者数は20名（うち、鳥取市が19名、岩美町が1名）となっている。

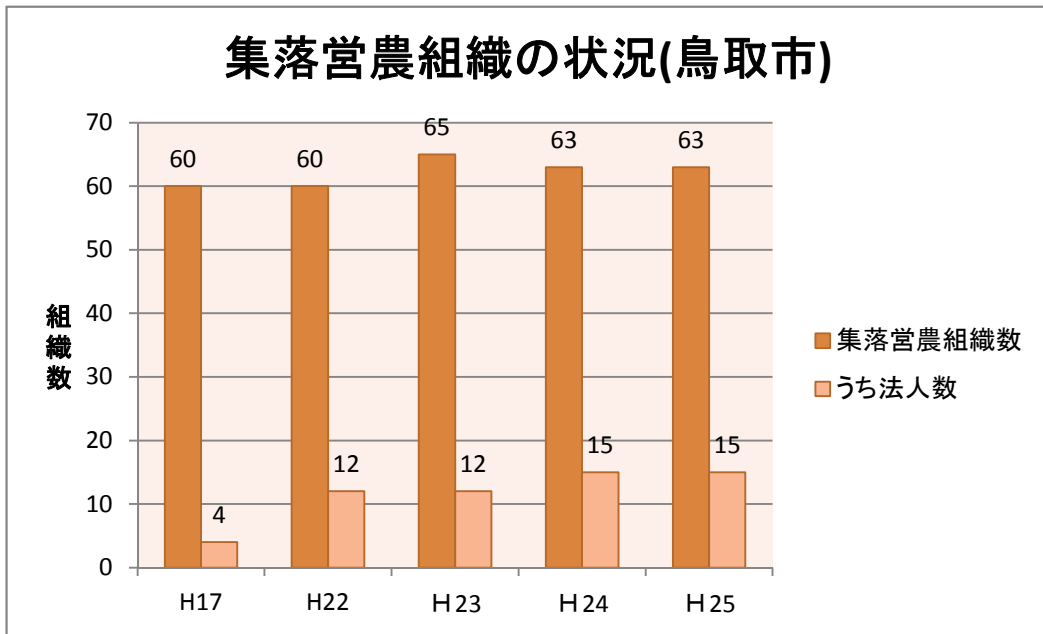


* 鳥取県経営支援課調べ

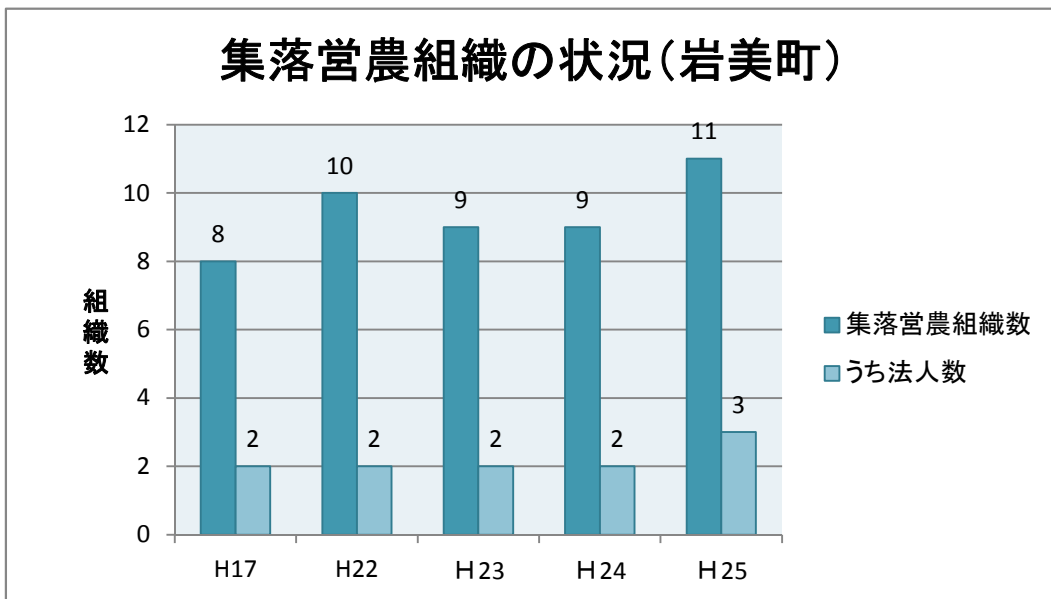
* 法人への就職者数は平成21年度以前は調査データ無し。

6 集落営農組織数

県東部の集落営農組織数は近年横ばい傾向にあり、集落営農組織のうち法人数については、微増傾向にある。



参考数値：農業集落数(鳥取市) H17(1995)年：401、H22(2000)年：394



参考数値：農業集落数(岩美町) H17(1995)年：47、H22(2000)年：48

農業集落数：世界農林業センサス数値
 集落営農組織数、うち法人数：集落営農実態調査数値(農林水産省)